

【様式】

令和5年度 学校マネジメントシート

学校名（特別支援学校北勢きらら学園）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		<p>○児童生徒一人ひとりが、快適に学び、確かな成長・発達を遂げ、それぞれの個性に応じた自立と社会参画が実現できるように支援する学校</p> <p>○特別支援教育の専門性の向上を図り、地域におけるセンターとしての機能を発揮できる学校</p>
(2)	育みたい児童生徒像	<p>○毎日を健康に過ごし、その中で「なりたい自分」や「将来のあるべき姿」を思い描き、その実現に向けて、人とつながりながら学ぶことができている。</p> <p>○社会の一員として地域で生活するために必要な知識・技能を身につけることを意識して、学習活動を行うことができている。</p>
	ありたい教職員像	<p>○児童生徒の安全と健康に留意し、その教育的ニーズや願いを把握したうえで、発達段階に応じた指導・支援ができている。</p> <p>○保護者や医療機関等と連携を図り、意見等を真摯に受け止める柔軟な心と思考を持つとともに、児童生徒の立場に立った指導・支援ができている。</p> <p>○校内研修や自主研修の場を通して、実践を振り返りながら経験を積み重ね、肢体不自由教育に関する専門性を高めている。</p> <p>○児童生徒に関わる様々な職種が、その立場を明確にし、学び助け合いながら教育活動を行うことができている。</p>

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p>&lt;児童生徒&gt; 安全で安心して楽しく学習できる環境の中で、わかる授業など教育活動の充実 卒業後の自立と社会参画に向けて、健康で主体的に活動できる力等の必要な知識・技能の習得</p> <p>&lt;保護者&gt; 安全な学習環境の中で、一人ひとりのニーズに応じた丁寧な指導・支援の実施 自己実現と社会参画につながる知識・技能を身につけ、個々の状況に応じた進路の保障</p> <p>&lt;地域&gt; 地域活動への積極的な参加による連携の強化と、地域の防災拠点としての役割</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<p>&lt;保護者&gt; 児童生徒一人ひとりを大切にしたい指導 家庭との信頼関係の構築</p> <p>&lt;福祉・行政・医療関係機関&gt; 自立と社会参画に向けての指導・支援の充実と、保護者との連携、情報提供</p> <p>&lt;地域&gt; 地域活動への参加と施設設備の開放、避難施設としての受け入れ態勢の整備</p>	<p>&lt;保護者&gt; 教育活動への参画と連携・協力体制 自立と社会参画に向けた連携</p> <p>&lt;福祉・行政・医療関係機関&gt; 進路先の開拓及び支援と福祉施設や就労先への指導・支援、健康管理のアドバイス</p> <p>&lt;地域&gt; 教育活動への理解と協力 教育活動の場、交流教育の機会の提供</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肢体不自由単独校として、研修をさらに進め、専門性の向上を図るとともに、本校で取り組んだ研修等を他校等にも発信して行ってほしい。</li> <li>・ICT機器の活用を推進し、授業の充実と業務時間の短縮を図り、過重労働の解消につなげて行ってほしい。</li> <li>・災害時等を想定したより具体的なチェックや地域と連携した訓練を実施して行ってほしい。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症拡大防止のために見合わせていた学校行事や施設開放等を、順に再開して行ってほしい。</li> </ul>	

(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>障がいの重度・重複化、多様化が進んでいることから、児童生徒の健康に留意し、一人ひとりの教育的ニーズに応じた教育実践を行う必要がある。また、医療や福祉などの関係機関との連携・協力体制を強化するとともに、肢体不自由教育に係る専門性及び授業力の向上が必要である。</li> <li>ICT 機器を活用した授業実践を進めて、肢体不自由児教育の充実をはかる必要がある。</li> <li>自立と社会参画を目指して、卒業後の生活を見据えた教育活動を進めるとともに、コロナ後の社会を想定した共生社会を実現するために交流及び共同学習の方法や内容等を工夫し、その在り方を地域と共に再検討する必要がある。</li> <li>特別支援学校のセンター的機能を発揮するため、実践事例等の発信や研修の機会・指導・支援のノウハウの提供など、内容や方法を工夫しながら情報発信を進める必要がある。</li> </ul>
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンプライアンスへの意識を高め、互いの気づきを積極的に共有することにより、教職員一人ひとりが安全で安心に職務を遂行できる職場環境づくりを進める必要がある。</li> <li>防災や感染症など教職員の危機管理への意識向上を図り、安全安心な学校運営を進める必要がある。</li> <li>地域に開かれた学校づくりを進めるために、ホームページを活用した取組の紹介など、内容や方法を工夫して積極的に情報を発信する必要がある。</li> <li>授業の準備や多様な会議の実施など、学校運営に係る内容や方法等を見える化し、職員が学校運営全体を把握しながら、工夫を凝らして業務の精選を図り、教職員の多忙感を解消する必要がある。</li> </ul>

### 3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた授業実践、ICT 機器を活用した授業実践を進めるとともに、発達段階に応じて共に学び合うキャリア教育の視点を取り入れた教育内容の充実を図る。</li> <li>コロナ禍に取り組んだ活動の総括し、コロナ以前の取組も踏まえてアフターコロナの取組として、文化祭や交流活動など様々な学校行事を再構築し、安全で安心して取り組める内容を検討し、プールの回数を増やすことや集会等の対面実施を図る。</li> <li>研修部が実施する教員の肢体不自由教育に係る基礎的な研修と各学部や分掌部が進める個別的な OJT を組み合わせることで専門性の向上を図り、実践事例や指導・支援のノウハウなどを蓄積し、その情報を発信することで、センター的機能の充実を図る。</li> </ul>
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療や福祉などの関係機関や地域と連携・協力し、児童生徒に安心安全な環境づくりを進めるとともに、地域と連携した防災機能の強化や情報管理、感染症対策やアレルギーや発作などの緊急対応など、教職員の危機管理への意識とスキルの向上を図る。</li> <li>教員一人ひとりが、自分が持てる力を発揮し、互いに知識・技能を共有し合える関係づくりを進めるとともに、校務分掌や会議等を見直す。</li> <li>業務内容が時期によって多くなるものがあるため、平準化や分担して作業することを進めることで総勤務時間の縮減に取り組む。</li> <li>信頼される学校であり続けるために、教職員がコンプライアンスを自分事として捉え、意識を高める取り組みを推進する。</li> </ul>

### 4 本年度の行動計画と評価

#### (1) 教育活動

項目	取組内容・指標	結果	備考
一人ひとりのニーズに応じた授業実践とキャリア教育の推進	<p>○教員の肢体不自由教育に関わる基礎的な知識・技能の専門性の向上を図るとともに、教員一人ひとりの教科学習の授業力の向上を意識した校内研修を進める。</p> <p>【活動指標】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学部を超えて教職員一人ひとりが選択した教科ごとに小チーム研修を行った。(英社理/音楽2/国語/算数2/図工美術2/生活/体育2) 動画での授業公開・授業検</li> </ul>	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員一人ひとりが授業力の向上を目指したい教科ごとに分かれての小チーム研修を実施。学習指導要領に沿った、3観点評価の明記、児童生徒毎に本校キャリア教育プログラムを明記した指導案を基にした授業実践、授業研究を実施。</li> <li>・S スケールの活用に向けての外部講師の招聘及び学習グループごとの研修会。</li> <li>・外部講師を招聘した授業研修と振り返り(年2回)。</li> <li>・摂食、からだ、コミュニケーションなど基本的な事項を踏まえたケース検討、ミニ講座、研修会を必要分掌と連携して実施。</li> </ul> <p><b>【成果指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小チーム研修での学びの報告会、各チームのレポートを研究紀要にまとめる。</li> <li>・取り組み評価アンケートに成果が見られたと回答した教職員の割合80%以上。</li> </ul>	<p>討、授業のはじまりの曲の作成など、教科指導の充実を図る研修を目指した。2月にはそれぞれのチームによるポスター発表、並びに研究紀要に1年間の取り組みをまとめた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏季休業中には福岡大学の徳永教授を招き、Sスケールの研修を行った。児童生徒のスコアのチェックを担当団ですりあわせ、次年度への引継ぎとして活用し、既習未習の把握に活用していく予定である。また、秋には三重大大学の菊池教授を招き、中学部の授業コンサルを行った。「かず」の授業の指導について助言をいただき、教職員の学びを深めた。</li> <li>・夏季選択研修期間以外にも、肢体不自由教育に不可欠な基礎的な事項に関する研修会を本校教諭を講師にして実施した。(電子絵本の作成、重度重複の児童生徒の授業の考え方、算数の指導について)</li> <li>・職員アンケートの集計は以下のとおり。 □小チーム研修は日ごろの授業に活かされたか。 →とても思う25% 思う50%</li> </ul>	
<p>共生社会の実現に向けた交流及び共同学習の実施</p>	<p>○児童生徒・保護者のニーズを把握し、相手校と連携・協力して交流及び共同学習の内容や方法を工夫する。</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手校と内容や方法についての情報交換を進め、直接的な交流及び共同学習を推進。</li> </ul> <p><b>【成果指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・居住地校交流を希望した児童生徒の80%が直接交流を実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居住地校交流では、希望する児童生徒 18 名が直接交流を 1 回以上実施した。(希望者全員)</li> <li>・全学部で、それぞれ近隣の学校との直接交流を 1 回以上実施した。小学部では、1回目の交流の前に北勢きらら学園の教員が相手校に向いての交流事前授業を行った。また、オンラインを活用して2回目の交流を行い、つながりを一層深めることができた。</li> </ul>	
<p>人権と命とを大切にする教育の実施</p>	<p>○人権と命を大切にする教育を組織的に実施する。</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学部において、人権や命の大切さについて学ぶ機会を推進。</li> <li>・いじめ防止の取組において、児童生徒や保護者へホームページや学校通信で取組の啓発や周知の実施。</li> </ul> <p><b>【成果指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人権や命を大切にする授業の実践を各グループで実践するために教材や情報発信を実施。その実践事例を年 2 回のアンケートで教職員間に共有。</li> <li>・いじめ防止についての取組を進め、いじめ防止やいじめ早期発見に関する啓発活動を学校通信な</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月と11月の「いじめ防止強化月間」では、教職員にピンクシャツ運動や実践例などを紹介し、「仲間意識」「人権意識」を高めるような取組を推進した。学校通信で取組内容の一部を掲載した。</li> <li>・昨年度からホームページ上に、「いじめ問題に関する相談窓口」を開設し、学校通信やホームページ上で活用を呼びかけた。今年度、北勢きらら学園でのいじめについては加害者・被害者ともに認知していない。</li> <li>・スクールカウンセラーによる児</li> </ul>	

	どで年間2回以上実施。	童生徒との面談や担任教員との面談を合計 8 回行った。
自立と社会参画に向けての指導・支援の充実と、保護者との連携、情報提供	<p>○中学部卒業後の進路選択について、保護者と連携を図るため情報提供を行うとともに、中学部または高等部卒業後の進路選択の希望やイメージを持つ機会を設ける。</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全校新転入生へは「進路資源マップ」を配付し、情報提供。(在校生は昨年度末に一斉配付済み)</li> <li>・中学部保護者を対象に、参加希望者には 2 学期中に進路説明会を実施。</li> <li>・中学部 3 年生保護者へアンケート方式の進路希望調査を取り、現状の希望把握と進路選択への意識をもつ機会を設定。希望者には、個別で質問や相談への回答。</li> </ul> <p><b>【成果指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路希望調査のまとめを職員へ周知。</li> <li>・進路だよりを通しての進路選択に関する情報を随時発信。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学部1～3年生保護者の希望者に進路説明会を実施することができた。出席は 24 名中 8 名で出席率は 33%だった。</li> <li>・新転入生に「進路資源マップ」を配布するとともに、学校 HP にも掲載した。</li> <li>・中学部3年生保護者へ進路希望調査を実施することができた。</li> <li>・進路希望調査のまとめを、中学部時点での進路情報として職員に周知した。</li> <li>・進路だよりを4部発行し、進路選択に関する情報発信を行った。</li> </ul>

### 改善課題

- ・児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた授業実践のため、教職員の学部の枠を超えた指導力の充実に向けた研修の実施や、より客観的に児童生徒の目標や実態把握を行うための研修等を計画的に行い、教職員のスキルを高めることができた。
- ・今年度試行的にすすめた副次的な籍も含め、児童生徒の自立と社会参画をより意識した系統的な交流学习や進路学習、保護者への情報提供を充実させていく必要がある。
- ・児童生徒の安心安全な学校生活のために、スクールカウンセラー等外部人材との連携をさらに進めていく必要がある。

## (2) 学校運営等

項目	取組内容・指標	結果	備考
危機管理意識の向上	<p>○防災機能を強化し、非常時における地域や校内での連携・協力体制を整備する。また、感染症予防に対する教職員の意識向上及び対策の充実を図る。</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な避難訓練と県地区との情報交換。</li> <li>・防災マニュアルの見直し。</li> <li>・感染症に係る対策案の見直し。</li> <li>・災害時の引き渡し訓練の計画案作成。</li> </ul> <p><b>【成果指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練の実施回数:3回以上。</li> <li>・感染症対策に係る保護者等への周知:随時。</li> </ul> <p>○緊急対応および事故の未然防止のための取組を進める。</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒について情報共有する機会の設定。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内での避難訓練を5月と1月、起震車体験を10月に実施した。1月は体育館へ避難する予定であったが、感染症流行のため、教室内での訓練となった。昨年度作成したオリジナル防災動画を使用し、児童生徒と共に命を守ることの大切さを学習した。</li> <li>・年度当初に防災マニュアルを見直した。また、スクールバスの緊急対応についても、マニュアルや動画で確認した。</li> <li>・災害時引き渡し訓練については、他校の訓練内容を参考にして原案を作成している段階である。来年度も本校の実態に合わせて計画を進め、訓練の実施につなげていきたい。</li> <li>・学校保健委員会を開き、個別の対応の確認や検討、感染症対策についての見直し、</li> </ul>	◎

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急対応訓練の実施。</li> </ul> <p><b>【成果指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校保健委員会の実施と医バック委員会での情報の共有、緊急対応訓練(全校訓練1回+個々訓練+心肺蘇生・AED 講習)の実施による安全体制の確認:随時。</li> </ul> <p>○職員会議や学校信頼向上委員会などを活用して、不祥事根絶研修を実施し、全教職員のコンプライアンス意識の徹底を図る。</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全職員による「教職員の不祥事防止のためのセルフチェックリスト」を毎月実施。</li> </ul>	<p>迷走神経刺激装置に対する職員対応について見直した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4月に緊急対応についての研修、8月にAEDの実技研修、プログラム対応・エピペン対応の動画研修を夏季全校研修で行った。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月、不祥事チェックリストを実施した。コンプライアンスミーティングでは県から提示された内容だけでなく、実際に校内で起こりうる身近な内容を取り上げ話し合った。</li> </ul>	
<p>情報提供による信頼の構築</p>	<p>○ホームページ等を活用して、積極的に特色・魅力ある教育情報を発信する。</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通信等のホームページへの掲載やコロナ禍における活動に関して報道などへの情報提供。</li> </ul> <p><b>【成果指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページを閲覧した保護者の割合 60%以上。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校通信「きらきら」や新型コロナウイルス感染症の対策等を随時ホームページに掲載した。今後も個人情報や著作権等に留意しながら更新していき、保護者に啓発していきたい。</li> <li>・連絡アプリすぐーるのアンケート機能を使用してホームページ閲覧数を調査したところ、69.1%であった。(前年度 37%)</li> </ul>	
<p>働きやすい職場環境づくり</p>	<p>○校内体制や教職員一人ひとりが、業務内容を見直して改善を図ることにより、生き生きと仕事ができる環境づくりを進める。</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・設定日に定時に退校した職員の割合 80%以上。</li> <li>・放課後に開催して 60 分以内に終了した会議の割合 80%以上。</li> <li>・ノー会議日・定時退校日(月1日)及び学校閉校日(8月、12月、1月に計4日間)の設定。</li> <li>・管理職と教職員間での意思疎通の機会を設定。</li> </ul> <p><b>【成果指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間 360 時間を超える時間外労働者数0人。</li> <li>・月 45 時間を超える時間外労働者延べ人数0人。</li> <li>・一人当たりの月平均時間外労働 20 時間以下。</li> <li>・一人当たりの年間休暇取得日数 12 日以上。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定時退校は概ね達成できた。閉校日は4日間設定し、職員会議や委員会など、おおむね 60 分以内で終了できた。</li> <li>・学部会 60 分以内終了 90% (全学部)</li> <li>・過重労働については、「年間 360 時間」を超える職員は0人、月 45 時間以上述べ人数は、13人いた。(1月末現在、前年比-5) 昨年度に比べ、減っているが、業務内容によって、定期的に増えたこともあった。</li> <li>・1人当たりの年休取得は、ほぼ達成できた。</li> </ul>	
<p><b>改善課題</b></p>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで感染症対策のために縮小していた防災訓練を、ウィズコロナ、アフターコロナの視点を取り入れて、関係機関とも連携した防災訓練として充実を図っていく。</li> <li>・アレルギーや発作対応について、関係機関と連携を図りながら、引き続き取組を進めていく。</li> <li>・教職員一人ひとりが働きやすい職場となるように業務内容の精選や改善の取組を引き続き行っていく。</li> <li>・個人情報やハラスメント等、社会意識の大きな変化に対応できるよう、今後も継続的な研修が必要である。</li> </ul>			

## 5 学校関係者評価

明らかに 改善課題と次へ の取組方向	<ul style="list-style-type: none"><li>・教員の資質向上に関わり、三重県の指標を参考にしていってほしい。</li><li>・交流及び共同学習を引き続き進めていってほしい。</li><li>・生活支援委員会の取組を継続し、校内で内容を共有することで、他場面への応用につなげていってほしい。</li><li>・卒業後への進路決定に向けて、地域の基幹センター等も活用していってほしい。</li><li>・マネジメントシートと保護者アンケートの内容を重ねるという視点、集約時に ICT を活用するという視点等を取り入れ、学校運営の改善に活かしてほしい。</li></ul>
--------------------------	--

## 6 次年度に向けた改善策

教育活動につ いての改善策	<ul style="list-style-type: none"><li>・生活支援委員会を継続し、教職員の専門性向上のため取組内容を校内で共有していく。</li><li>・交流および共同学習の実施がスムーズに行えるよう、早期からの準備を進めていく。</li><li>・中学部・高等部の卒業後の進路選択について、地域の相談支援事業所と連携を取りながら、早期より情報提供や取組を進めていく。</li></ul>
学校運営につ いての改善策	<ul style="list-style-type: none"><li>・アフターコロナの視点を取り入れた避難訓練や、保護者や事業所と連携した災害時引き渡し訓練の計画を進めていく。</li><li>・働きやすい職場環境づくりの実態把握や情報収集ため、引き続き、アンケート項目や集約方法を見直していく。</li><li>・来年度も引き続き、有識者や地域の方々に学校運営に参画していただき、教育活動の充実を図っていく。</li></ul>